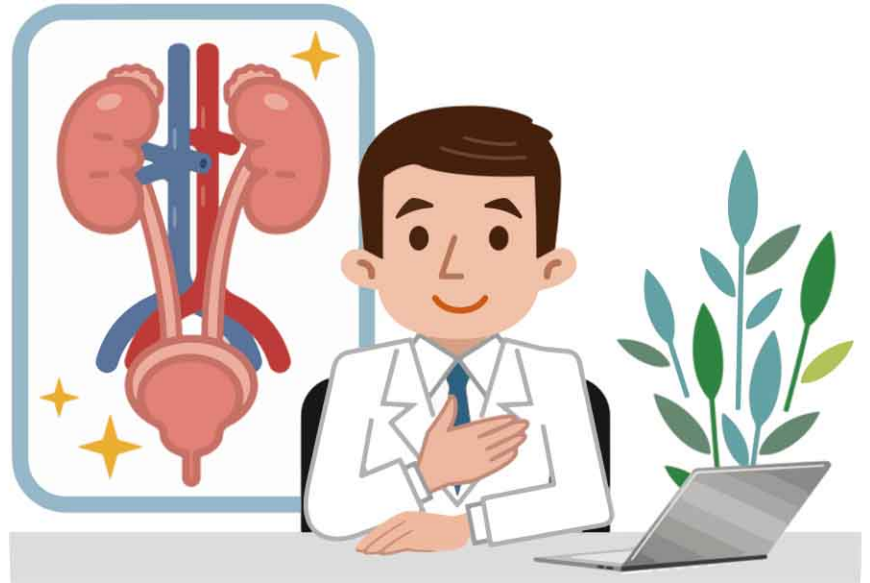


腎移植 について

腎臓内科部長 岩下 裕



1. 腎臓とは

腎臓は余分な水分や老廃物を尿として体外へ排泄する臓器です。その他にもホルモンを作ったり、ビタミンDを活性化したり等様々な機能を持っています。何らかの疾患で腎機能が悪くなった場合(末期腎不全に至った場合)、これらの機能が低下してしまい、命にかかわる状態となります。その時の治療選択肢として腎代替療法があります。腎代替療法には大きく分けて①腎移植、②透析療法の二つがあります。ここでは腎移植についてお話したいと思います。

2. 腎移植とは

腎移植は他人から腎臓をもらい、末期腎不全による症状を改善する治療です。腎移植は①献腎移植(亡くなった方から腎臓をもらう)、②生体腎移植(健康な方から腎臓をもらう)があります。2020年時点では1711名の方が腎移植を受けられました。そのうち生体腎移植を受けられた方は1570名、献腎移植は141名でした。(日本臨床腎移植学会・日本移植学会・腎移植臨床登録集計報告(2021)より)海外全体では年間約65000名の方が腎移植を受けておられ、珍しい治療ではありません。(腎不全治療選択とその実際(2022)より)

日本でも他の臓器移植と比較して移植件数も多いことから新聞などに取り上げられることが少ないため逆に目立たない治療になっています。

腎移植は基本的には全身麻酔の手術を受けられる心臓と肺を中心とした全身状態が良好であれば、すべての末期腎不全の方が適応になります。ただし、移植後は免疫抑制薬を内服いただく必要があり、自己管理が難しい患者さんや薬による副作用が大きいと判断される患者さんは移植を受けることができません。

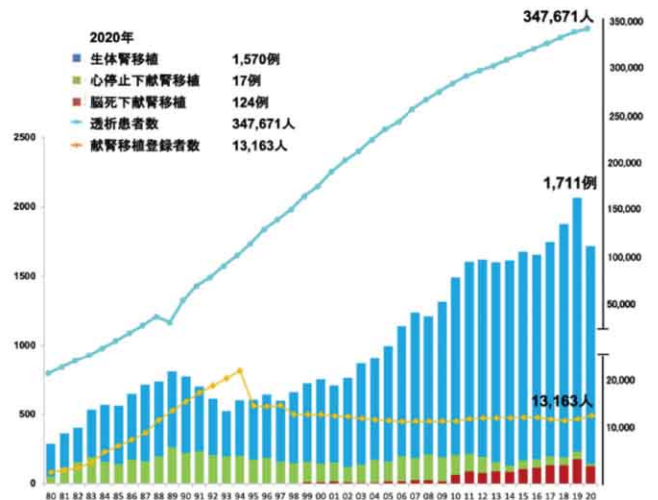


図3 透析患者数・献腎待機患者数・腎移植数の推移

日本臨床腎移植学会・日本移植学会・腎移植臨床登録集計報告(2021)より引用

① 献腎移植

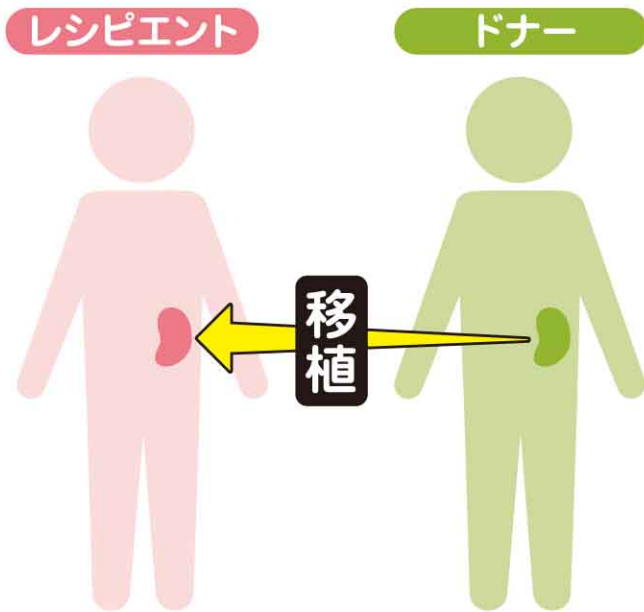
脳死・心停止の患者さんから腎臓を提供いただきます。

- 『献腎移植新規登録用紙』へ記入
記入用紙は移植施設にあります
- HLA検査結果を提出
病院で白血球の型を調べてもらいます
- 登録料/新規 30000円、
更新 5000円(年一回)
移植を希望する施設で年一回以上診察を
うけることが更新条件

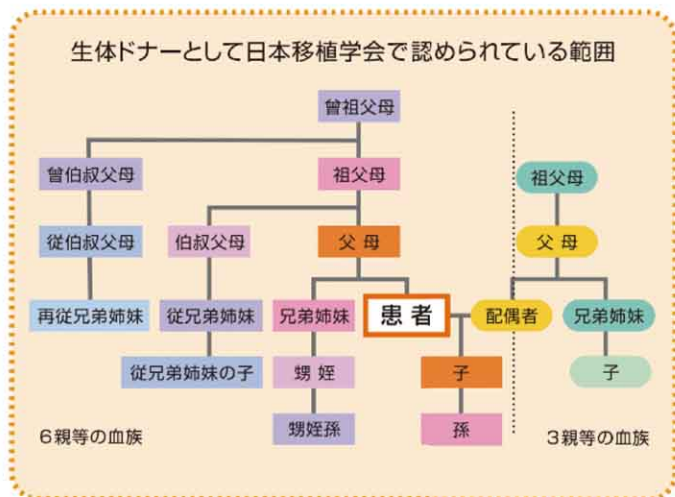
腎不全 治療選択とその実際(2022)より引用

② 生体腎移植

腎機能の問題ない患者さんから1つ腎臓を提供いただけます。腎臓を提供する人をドナー、もらう人をレシピエントといいます。



現在の日本では生体腎移植のドナーは6親等以内の血族もしくは3親等以内の姻族と定められていますが、事実婚の夫婦間や義兄弟でも移植が可能な場合があります。(学会に申請し承認が必要)



腎不全 治療選択とその実際(2022)より引用

自発的に腎臓の提供を申し出ていること、あくまで見返りを求めない善意での提供であること、ドナーの手術の安全性やリスクを十分に理解し、術前・中・後の医学的ケアに協力が可能であること、心身ともに健康であることが前提条件となりますが、上記を満たした場合はどなたでもドナーとなることが可能です。

また、現在は血液型が異なっても移植が可能です。(ABO型不適合移植)

? ドナーにはどんなリスクがあるの?

手術によるリスクがあります。また、腎摘出に伴う腎機能低下のリスクがあります。そのため、手術前検査で手術リスクがないかの評価と、手術後も定期的な受診(一般的には年一回)と生活指導(禁煙、食事療法、血圧等の管理)が必要です。

? レシピエントはどんなリスクがあるの?

ドナーと同様で手術を受けるリスクがあります。また、術後の合併症として拒絶反応があります。そのため移植後は拒絶反応の対策として免疫抑制薬を服用していただきます。腎移植では術後早期は最も拒絶反応が起こりやすく、免疫抑制薬の量も多くきちんと内服いただくことが必要です。そして、免疫抑制薬は一生服用いただくこととなりますので、この副作用に対しても対策が必要です。感染症や悪性疾患の合併もありますので、定期的な受診と検査を行い合併症に対応する必要があります。腎移植後は健康な人と同じように生活することが可能です。

しかし、いただいた腎臓を守りながら生活することが望ましく、健康的で規則正しい生活を心がけていただく必要があります。バランスのとれた食生活、適度な運動、禁煙、過度のストレスがたまる状態を避ける等が必要です。

? どれくらい費用がかかるの?

腎移植では初年度800-900万円、次年度からは200-300万円といわれています。医療費助成制度を利用し自己負担を現実的な金額まで軽減していただくことが可能です。

腎移植により健康な人と同じような生活を送ることが可能となり、人生も変えうる可能性があります。当院では島根大学医学部附属病院、広島大学医学部附属病院と連携し移植についてお話をさせていただいております。詳しいお話を聞いてみたいという方がおられましたらいつでもご相談ください。お待ちしております。

